

(1) 発表者（代表者）氏名および所属

東郷多津（京都ノートルダム女子大学）

(2) 発表分野（英語、日本語、理数系、学習支援、ICT）

英語

(3) 発表形態（口頭発表 他）

口頭発表

(4) 発表タイトル（和文と英文）

学習者が英語ライティング能力を協調自律的に高めるための教材開発に関する研究

**Developing Learning Materials with a Collaborative Autonomous Learning Approach Applied to an English Academic Writing Course**

(5) 共同発表者氏名および所属

田中美和子（京都ノートルダム女子大学 非常勤）

(6) 発表時の使用機器

PC、プロジェクター

(8) 発表要旨（800字以内）

2008年以降、いわゆるゆとり学習時代に全学校教育を受けた学年が大学に入学している。一般的な私立大学では、その教育を享受した学生が一般入試以外の制度によって入学してくる場合も多い。このような学生には、自ら進んで学習しようとする学習態度が身につけていない場合がある。しかし、生涯学習を見据えた大学では、個々の学生が自律的な学習態度を身につけることは必要不可欠である。そこで、発表者らは、大学1年次に必修の英語ライティングの授業の中で、自らの意見を英語で表現する技術を学びながら、それらを発信できる力を培うことのできる教材を数年にわたり研究開発している。

本発表で扱う授業では、「駅伝」をメタファーとした教材開発を行った。前期にはすでに「巣立ち」をメタファーとし、「自律的に学びながら英語で自分の意見を発信できるようになること」を目標とした教材開発を行い、教師主体の教授から、学習者主体の学習への転換を図ろうと試みた。

後期の授業は、学習者主体で学習を計画、実施、管理、評価する過程を経た学生が、同様の学習態度を維持できるような授業として、「協調する」要素を盛り込む計画を立てた。これは、清田(2008)が自律の定義の中に、「集団的な学習活動において、状況を判断して友人や教師と協力して効果的な活動ができる」という人と協調する能力を含めている、また、知識創出や蓄積するタイプの学習を可能にする主体的な学習ベースとして、西之園ら(2007)が協調自律的な学習開発が有効であると提唱していることから有効だと判断できる。

本発表では、後期の授業内容の概要を、その効果について触れながら紹介する。

引用文献

清田洋一(2008)『授業の内外でポスト・リーディング活動を 英語 I での実践例』「英語教育」Vol.56.No.12、大修館 pp.14-16

西之園晴夫、望月紫帆(2007)『生涯学習社会における協調自律学習の教育技術の基礎研究（その2）』「佛教大学教育学部論集」Vol. 18、佛教大学教育学部 pp.69-78